

❖ Information Letter 2010 Autumn

Helping you become
an effective communicator
in the international setting!

暑さも和らぎ、過ごしやすい季節になってきましたが、皆様お元気でいらっしゃいますか。

このインフォメーションレターでは、K/Hシステム主催のコースや出版物に関する最新情報をお届けします。一般公募講座や企業内研修の特集をはじめ、出版予定の書籍の内容など、詳しくお知らせします。

■ Contents

- 特集1** K/Hシステム 英語プログラム:年間スケジュール
- 特集2** 『中・上級レベル向け ビジネス洋書を軸に、総合的な英語力の強化!』
 -Point1 ビジネス洋書で学習するメリットは?
 -Point2 [ビジネス洋書 × Audio Book + 翻訳本] の組み合わせ
 -Point3 学習にお勧めの タイプ別ビジネス洋書
 -Point4 学習を途中でやめてしまわないためのコツ&アドバイス
- 特集3** 第6期 K/Hシステム 上級フェローシップ・プログラム
 コース概要、申し込みについての詳細

特集1 K/Hシステム 英語プログラム 一般公募講座:年間スケジュール

K/Hシステム実力英語講座、2010年のスケジュールをお知らせします。年に2回実施している一般公開コースでは日米の企業研修を通じて得た新しい視点やノウハウを常に反映させ、参加者の方々に より効果的かつ効率的に学んでいただけるプログラムであるために改善を重ねています。年間を通じて、体系的に、着実に英語力を伸ばしていくためマイルストーンやペーサーメーカーとしてご活用ください。コースに関する詳細情報は: www.KH-system.com

2010年 秋季 10~11月集中コース

<実力英語講座 短期集中プログラム>

- ・10月9日~11日 [半日3日] 英語力強化 エントリーレベルコース/英語力強化 コアコース
- ・10月16・17日 [1日半] ビジコミ強化 コアコース
- ・11月 6・7日 [1日半] 中級スピーキングコース

<第6期 K/Hシステム 上級フェローシップ・プログラム> 継続者向け 4ヶ月通学型コース

- ・DAY1: 11月20日(土) 9:30-17:30
- ・DAY2: 12月11日(土) 13:00-17:30
- ・DAY3: 1月15日(土) 13:00-17:30
- ・DAY4: 2月19日(土) 9:30-17:30

*詳細は本誌 5ページをご覧ください。

来年の春季コースは、ゴールデンウィークと前後の土日に開催を予定しています。コースに関する詳細情報は、ウェブサイトをご覧ください。

今回の特集では、「ビジネス洋書」を軸にした学習アプローチをご紹介します。「洋書」と聞くと、リーディング力に偏っていて総合的な力がつかないイメージがあったり、難しくとっつきにくそうなイメージがあるために抵抗感を持っている人もいるかもしれません。ここでは、実戦で使える英語力を総合的に強化することにつながる、より学びやすく、継続しやすい洋書活用法を紹介します。また、数あるビジネス洋書の中から選んだ、タイプ別のお勧め本も簡単にご紹介しますので、自分に合ったものを選ぶ上で参考にしてください。

Point 1: 「ビジネス洋書」で学ぶことの様々な利点！

「ビジネス洋書」は、「ビジネスで使える英語力の強化」に必要な学習要素を学ぶ上で非常に有用です。

- 1) **英語の論理展開を学べる**: 話の要点が分かりやすく、全体の論旨の流れも非常に明快なものが多い。英語の論理構造を学習する上でいい見本になる。内容を詳しく説明するときの表現、次のトピックに展開するときの表現など、論理構造を明快に示すための表現も多数学べる。
- 2) **ビジネス一般で使われる語彙表現が学べる**: 仕事の内容なので、英語自体も仕事で頻出するものが詰まっていて、語彙表現を効率的に増やせる。最近では、ストーリー仕立ての会話表現が多いビジネス洋書も出ているので、ネイティブが仕事で使う会話表現も学べる。
- 3) **ビジネスで、マネジメント関連の抽象度の高い話をする時の語彙表現や、構文が学べる**: ビジネスを行う上で重要な価値観やビジョンなどの抽象的な内容も出てくるので、そこで頻出する概念的な語彙表現や、概念の関係性を示す構文を学べる。グローバルに活躍することを目指す人は特に意識して学んでおきたい。
- 4) **内容自体が勉強になり、面白い**: 何よりも内容が勉強になるものであれば、ニーズを感じやすいし、興味も続きやすい。英語力の強化と、仕事力の強化の両方を満たすことができる。

以上のように、「ビジネス洋書」で学習することには様々な利点があります。

ただし、今回紹介する学習アプローチに必要なものは、「洋書」=本だけではありません。K/H システムではビジネスの現場で使える英語力を総合的に養成するために、「正確性」と「スピード」を両立することが重要だと考えていますが、その両方の力を効率的、かつ効果的に強化するためには、本に加え、以下のものも教材として活用することをお勧めします。

[(A) 洋書 × (B) Audio Book + (C) 翻訳本] の組み合わせ

Point 2: (A)「洋書(英文)」と (B)「Audio Book(音声)」のセットで学習。(C)「翻訳本(意味)」はサポートで

🎧 **(B) Audio Book(音声) を活用!**: 10年ほど前から、Audio Book と呼ばれる、洋書をそのまま音声で読んだCD が多数販売されるようになりました。今ではほとんどの著名なビジネス書は Audio Book の形でも販売されています。これを学習用のCD として活用すれば、質の良いコンテンツで、良い英語を「使える形で身につける」ことが可能です。例えば、音声を聞いて、聞こえない音を洗い出したり、英語の「かたまり」感覚を意識したり、イメージや情景を浮かべるように聞いたり、シャドーイングをして表現を身につけたり…Audio Book は英語力を活性化するのに非常に有用です。

📖 **(A) 洋書もセットで使用!**: 洋書は、上級者に必須の「正確性」にフォーカスした学習をするのに必須です。洋書の英文があれば Audio Book を使って勉強するときに、後で聞こえない単語や表現、分からない構文を読んで確認ができるため、正確に理解することができます。また、音で感覚にすりこむ前に、きちんと英文を読み、構文、語彙表現、論旨の流れをじっくり勉強しておく、ただ音声で聞いて意識するよりも、ずっと正確に、効率よく身につきます。

📖 **(C) 翻訳本はサポート役に!**: 翻訳本は学習効率と効果の面で重要です。英文の意味が分からない時、特にセットフレーズやイディオムなどが出てきた時に、翻訳本があればすぐに意味を確認することができます。(翻訳本の中には意識されているものもありますが、最低限「どんなことを言いたい時に、この英語になるのか」が分かるヒントになります。)毎回辞書を引かずにすむので、心理的にも時間的にも負担が少なくなることも大きな利点です。また、学習の導入としては、いきなり洋書を読まずに、翻訳本から読んでしまう手もあります。翻訳本で内容を理解した後で洋書に移れば、英語を読んでもイメージが浮かびやすくなり、語彙表現や言い回しに慣れてくるので、学習効果が高まります。英語力強化の補助輪として使うとよいでしょう。

海外のビジネスパーソンであれば、役職に関わらずキャリアを積み上で読んでいた分野 “Leadership and Management” の中から、海外でも特に人気があり、かつ学習に適した洋書を紹介します。

以下、書籍の情報は、難易度(■が多いほど英語が難しい)、洋書の名前、著者、出版社、邦題の順に並べています。

1. Visions and Values (リーダーに必要なビジョンや価値観)

- a) ■□ **Winning** (Jack Welch, HarperCollins) 邦題:『ウィニング 勝利の経営』
- b) ■□ **7 Habits of Highly Effective People** (Stephen R. Covey, The Free Press) 邦題:『7つの習慣』
- c) ■□ **How to Win Friends & Influence People** (Dale Carnegie, Gallery) 邦題:『道は開ける』

特徴: ビジネスリーダーまたはビジネスコンサルタントである著者の経験と体験をベースに、リーダーに必要な「ビジョンや価値観」のエッセンスを書いたもの。トピックごとにロジカルに整理されていて、「メインポイント⇒サポート」の流れが非常に明快。メインポイントで「キーワード(概念的な価値観に通じる用語)」が出て、それをより詳しく説明する定義づけや具体例が後に続く。具体例は著者の経験談(エピソード)によるものが多く、イメージが湧きやすい。英語の特徴としては、基本的に文が短く、リズムがあり、意味が入ってきやすい。語彙は比較的平易なものが多く、TOEIC800 点以上あれば問題なく読める難易度。具体例のエピソードの部分は具体的なセリフが多いので、会話表現も学べる。

- ➔ 洋書に慣れていない人は入りやすいタイプの本。このタイプは「1章完結型」(章でテーマが完結している)が多いので、必ずしも最初から順に読んでいく必要はなく、興味が湧いた章を選んで読むこともできる。

2. Business Fable (学びのエッセンスが含まれるフィクションのストーリー。Fable=教訓が含まれる物語)

- a) ■■□ **Five Dysfunctions of a Team** (Patrick Lencioni, Jossey-Bass) 邦題:『なぜチームは機能しないのか』
- b) ■■□ **The Goal** (Eliyahu M. Goldratt, North River Press) 邦題:『ザ・ゴール』
- c) ■ **The One Minute Manager** (Ken Blanchard, HarperCollins) 邦題:『1分間マネージャー』

特徴: ストーリー仕立てのフィクションで、登場人物が出てくる。小説または映画・TVドラマの SCRIPT を読むような臨場感のある内容。会話を中心。ストーリーを追体験しながら、ビジネスで重要なコンセプトを具体的に学んでいく流れなので、章ごとに「メインポイント⇒サポート」の形にはなっていないが、各コンセプトの定義、それを学ぶ理由や重要性・利点などは登場人物のセリフの中で表現される(上記 a)のみ、巻末に各コンセプトのエッセンスがまとめられている)。英語の特徴としては、職場で頻出する会話の定型表現やイディオムが多く、色々なビジネスの場面(スモールトーク、ミーティング、電話、プレゼンテーション)で出てくるものを学ぶことができる。また、表現と、それを正しく使うコンテキストをセットで学べる。特記事項としては、上記 a) や b) は、厳しく相手に伝える場面(相手に問題を指摘する、間違いを正す、解雇する 等)で、相手に礼を失することなく、どのような表現と論理展開で話をするか、幾つかの具体例が出ているので、ケーススタディとして、厳しくかつ丁寧に話をする方法を学ぶことができる。

- ➔ 映画や TV ドラマが好きで、会話表現に慣れている場合、読みやすいタイプの本。逆に、新聞や雑誌など論説系の文章の方が慣れている場合は、逆に頭にイメージが残りにくいこともありえるが、挑戦しがいのある内容。

3. Business Studies (企業の具体的な事例を基に導き出された、成功に不可欠なコンセプト)

- a) ■■■ **Build to Last** (James Collins and Jerry I. Porras, HarperBusiness) 邦題:『 ビジヨナリー・カンパニー1 』
- b) ■■■ **Good to Great** (Jim Collins, HarperCollins) 邦題:『 ビジヨナリー・カンパニー2 』
- c) ■■■ **How the Mighty Fall** (Jim Collins, Jim Collins) 邦題:『 ビジヨナリー・カンパニー3 』

特徴: 多数の企業の事例を基に導き出した「成功と失敗の法則や要因」を描いたもの。帰納した「法則や要因」を概念化し、「新しいキーコンセプト」を打ち出し、その重要性を論じているもの。一見複雑そうに見える概念を、例示を使い、丁寧に説明している。証明部分である企業の事例のパートは長いですが、大きく全体の流れを見ると、論旨は明快。特に論の立て方、サポートの入れ方は丁寧に、ある論を証明するために、理解のずれや誤解がないよう、細かく概念を定義している。また、コンセプトを正しく理解してもらうために、ケーススタディも「悪い例」と「良い例」の対比が出ている。概念を正確に定義し、情報の関係性を示していることが多いため、複雑な構文が多数出てくるが、ビジネス文書であれば普通に出てくるレベルの難易度の構文。語彙も、難易度は高めで、ラテン語系の概念的で長い単語が頻出する(ただ、構文同様、ビジネス書で一般的なもの)。

- ➔ 紹介する中で最も難易度は高いが、英語を使ってグローバルに活躍するためには慣れておきたいタイプの本。このタイプの本は、大抵似たような語彙・構文の難易度、ロジックの展開になっているため、一旦このタイプの本に慣れてしまえば、読みやすさは格段に上がり、読むスピードも向上する。

* 上記 a)~c)はスタンフォード大学ビジネススクールの経営学者ジム・コリンズ氏が、何年もかけ膨大な企業を調査し、導き出した知見を論じたシリーズで、邦題は連続性があるように見えるが、実際はそれぞれに扱うテーマが異なるので、どこから読み始めても問題はない。特に b)は、全世界で300万部売れた大ベストセラーで、「普通の(Good)企業から超一流(Great)企業に飛躍し、15年以上 Great な状態を維持できた会社の裏にある成功の法則」を分析したもの。現在、K/Hシステムの企業研修やフェローシップ・プログラムでブックレポート課題として使用している。

Point 4: 学習を途中でやめてしまわないための コツ&アドバイス!

選び方

👉 自分の興味と、英語力に合った内容を選ぼう

楽しく学習を継続するために、自分が内容を学びたいもの、内容に興味のあるもの、ニーズに合うものを選択したい。洋書選びに慣れていない場合は、翻訳本の内容が気に入った本を選び、その洋書を読むのもお勧め。また、内容だけでなく、英文の難易度も洋書を選ぶ時の重要なポイント。辞書がなくても70%程度分かりそうなものを選ぶと良い。英文が難しすぎるとそれだけで続かなくなりやすいので、難易度の高いものには段階的に挑戦しよう。書店で中をパラパラと見るか、WEB のサマリーなどを参考にして英文の難易度を確認すると良い。

読み方

👉 全てを読み切ろうとせずに、1章を1ゴールとしよう

大抵、1つの章である程度内容が完結しているので、そこを1つのマイルストーンにすると良い(ストーリー型であっても、章ごとに区切りがある)。ストーリー型でなければ、目次のタイトルをサッと見て、割り切って興味のある章から読むのも賢く継続するコツ。Audio Book も章ごとに区切られているので、そこだけ繰り返し聞くことができる。

👉 辞書を引くことにこだわらず、後でまとめて確認しよう (※前提:自分の英語力に合った洋書を選択していること)

分からない単語が出てくるたびに辞書を引くのは、面倒くさくなりがちなので、分からない単語は一旦印をつけるか、そのままにしておくようにしよう。読みながら辞書を引くのはその章で重要そうなキーワードや、何度も出てくる単語に限っておこう。英語は基本的に「メインポイント⇒それをサポートする情報」の順番で書かれていることから、1文の中の単語が分からなかったとしても、他の文で内容の理解を補うことができる。前のページにある、「翻訳本」を上手に組み合わせるのも時間の短縮になる。

👉 通勤中、出勤前や帰宅後の時間を有効活用し、効率的な時間の使い方を事前に計画しておこう

なるべく移動時間や、仕事モードの出勤前や帰宅後の時間を効率的に使う方が良い。上手にタイムマネジメントをして、読み進めよう。書籍を持ち歩くのが負担だと感じるようであれば、電子書籍リーダー等を活用しよう。通勤中に音声で英語を勉強するのなら、案外重宝するのがノイズキャンセラ付きのイヤホン・ヘッドホンの使用。電車や車の騒音の中でも音声はかなりクリアに聞こえるため、通勤中の学習効果アップ!

それでも続かなくなったら・・・

👉 別の本に移る!

あまり1つの本だけに固執せず、続けられないと思ったら、別の本にチャレンジするのも賢い手。一度は内容に興味を持った本なので、また読みたくなった時に戻るくらいの気持ちで。別の本に移れば、また別の知識やナレッジを得られるので、良い気分転換になる。自分に合ったもので続けられるものが見つかるまで、2~3冊本を変えたり、並行して読み進めたり、色々実験してみよう。

🎧 オマケ: Audio Book 音声の試聴について:

Audio Book を購入する前に試聴を希望する方も多いと思いますが、今のところ公式に洋書が試聴できるページは非常に少ないようですが、一部の WEB サイトで試聴ができるところを紹介します。音声は本来のものより劣化させているようですが、読み方やスピード感などのイメージをつかむことができるので、購入前の試聴としては問題ないと思います。(2010年9月現在)

試聴方法① Apple 社の iTunes Storeに行き、一番下の「管理⇒国を変更する」をクリック。「United States」を選び、アメリカの iTunes Storeに入る。そこで検索バーに、希望する書名を入れ、検索をかけると本の一覧が出てくる。(出ない場合は、「Audio books」を選択)希望する本をクリックし、「Preview」のボタンを押すと、序章の部分の音声を30秒程度聞くことができる。

試聴方法② アメリカの大手書店 Barnes & Noble の WEB サイトより、検索バー(SEARCH)で「書名または著者名」に続けて「digital audio」と入力し、「All product」から検索をかけると、本の一覧が出てくる。(例: Good to Great digital audio) 希望する本があればクリックし、開いたページで本の画像の下に「Listen」というボタンが出ていれば、音声を聞くことが可能。「Listen」のボタンを押すと序章の部分の音声を2分程度聞くことができる。

いかがでしたか? 洋書と Audio Book (+翻訳本)を組み合わせることで、ビジネスの現場で「使える英語力」を総合的に強化できる効果的な教材セットが出来上がります。興味も続きやすく、学びやすい教材なので、ぜひ挑戦してみてください!

「ロジカル」で「品格のある」英語コミュニケーション力を養成する！

アメリカの討論番組レベルの英語構文を「瞬時に」かつ「正確に」意味を理解できる力、討論であっても「相手に礼を失せず」かつ「説得力のある」話し方ができることを目指し、そのために必要な学習要素を実践的に強化

K/H システム 上級フェローシップ・プログラムは、K/H システムの中級コースまで受講した方が更に英語力を向上させるための特別プログラムです。4ヶ月の通学型コースで、実践的な英語コミュニケーション力の養成トレーニングが中心の「継続学習コース」です。今期(第6期)は11月後半からスタートします。現在は年に1回しか開講していませんのでお早めにお申込みください。

□ コース概要

- コア・中級コースで学んだ英語コミュニケーション力を、スピードが求められる実践の場で十分に生かせるレベルに向上することを目的とし、「実践練習」と「レビュー」を交互に行う実践プログラムにすることを考えています。具体的には：
 - ☑ 今以上に上達するために何を改善するのが最も効果的かを明確にするために、初日には、個別に＜英語コミュニケーション力のアセスメント＞を行い、課題を明確にします。次に、4か月間の実践練習におけるフォーカス分野を設定します。講師陣はそれをベースに、コース中の実践練習時に随時個別アドバイスを行いながら4ヶ月の目標達成をサポートします。特に、上級者には、文法(時制・冠詞・複数形)、構文力、自然な表現の選択、ロジックのリンク、丁寧表現の選択などスピーキング力の細かな部分まで改善できるようなサポートを行います。
 - ☑ コース期間中は上記の個別課題の克服と個別目標の達成のために「パフォーマンスの録音⇒自分の英語の問題の把握⇒対策立案⇒練習⇒発表・・・」を繰り返して行います。個人学習では避けてしまいがちな「自分のスピーキングを聞き、苦手な部分を具体的に特定し、それを強化するPDCA 学習サイクル」を皆で継続的に回します。
 - ☑ 訓練ツールには、瞬発力強化に適した「100%シャドーイング」、「同時通訳風意味落とし」、「立体メモベース英語もどし」を主に使い、自然な英語を能動的に身につけます。
- インプットとアウトプットをバランス良く組み合わせ、実践練習を行います。アウトプットを意識して、質の高い英語をコンスタントにインプットすることで、スピーキングの英語の品質を大きく向上させることを狙います。
- 毎回のクラスのスピーキングのテーマに沿って事前に『学習サポート資料』(練習上のコツや注意点、使える表現リスト、参考 WEB サイトや書籍の情報等を含むもの)を配布します。それにより、クラスの課題を効率的に仕上げ、かつ各自の英語力・コミュニケーション力の強化に最も効果がでる形にします。
- 中上級者に必要な英語構文・表現・ロジックの展開に数多く触れるための教材を提供します。日米の企業研修で使用している最新のK/Hシステム教材や資料も使い、参加者のニーズにできるだけ対応する形でクラスを進めます。

🗨️ 参加者の声

「実践的で、スピード感のある構成が大変魅力的だった」「4か月間、いいペースで継続学習のモチベーションを維持できた」「参加者の意識が高く、レベルが高いのでモチベーションが高まる」「自分の実力を再認識できたため、目標に向かって後どれくらい努力しなければならないのか考えることができた」「英語だけでなく、国際的に仕事をするための考え方を教えてもらって大変良かった」

■ 受講資格： 主な K/H システムのコースに 4コース以上参加された方(または 3コース+旧 通信講座を受講された方)

- ☐ TOEIC 750点以上 (750点未満の方も、相談の上受講可)*
- ☐ K/H システム 長期企業研修コースに参加された方も対象

*レベルや受講コースなどに関するご質問があれば、遠慮なくお問い合わせください。

■ 定員： 16名まで

■ 日程： 11/20(土)・12/11(土)・1/15(土)・2/19(土)*

* 11月と2月は9:30-17:30、12月と1月は13:00-17:30

■ 長期リピーター特別価格： 49,000円(税込)

■ 申し込み方法： 下記のいずれかの方法でお申込みください。

WEB: www.kh-system.com ⇒ トップページ [フェローシップ・プログラム 申込]

電話: 03-3883-2262 (月～金: 9:00-18:00) / E-mail: support@kh-system.com **

**右の必要事項を記入の上、お送りください。 [①氏名 ②住所 ③電話連絡先 ④E-mail ⑤会社名 ⑥TOEIC]